

第19回 MJテクノロジー

2000 MJ Technology of the Year

2000年2月号から2001年1月号までの1年間に、MJズームアップ、MJテクニカルレポートなどで取材したオーディオ機器のなかから、音質的、技術的に優秀な機器を選出するMJテクノロジー・オブ・ザ・イヤーは、57機種中28機種が入賞し、この中から最高得点のテクノロジー・オブ・ザ・イヤー賞2機種および、各部門で最高点を獲得した部門優秀賞4機種が決定した。

●テクノロジー・オブ・ザ・イヤー賞●

アキュフェーズ **DP-100** SACD/CDトランスポート ¥700,000
DC-101 デジタルプロセッサ ¥800,000



DP-100はSACD/CDトランスポートであるだけでなく、じつはDVD-Audioや従来のデジタルオーディオ信号を高精度、ハイスピードで伝送可能とするHS-Linkインターフェースを搭載していることが大きな特徴で、ぜひこれが世界標準規格になることを願うものである。

DC-101はSACDの1ビット出力2.8224MHzや、DVDオーディオの192kHz/24ビット出力にも適応するデジタルプロセッサで、オプションボードによって拡張性が約束されていることが何よりの強みであろう。音質的にも最高クラスであることが最高得点の獲得となった。(窪田登司)

・オブ・ザ・イヤー

テクノロジー・オブ・ザ・イヤー賞，部門優秀賞，部門賞，全28機種

今回テクノロジー・オブ・ザ・イヤー賞を2機種としたのは，得点もさることながら，技術的，音質的に甲乙つけがたいためで，協議の結果両機に贈ることとなった。カラー頁ではテクノロジー・オブ・ザ・イヤー賞および部門優秀賞受賞機種を，53ページからは各選考委員の選考基準および寸評，得点表，そして入賞22機を紹介する。

●テクノロジー・オブ・ザ・イヤー賞●

ラックスマン **DU-10** デジタルユニバーサルプレーヤー ¥880,000



CD, CD-R, ビデオCD, SACD, DVDオーディオ, DVDビデオのすべてが再生でき，音質的にも機能的にも高度に練り上げられた，ハイエンドマニア待望のマルチディスクプレーヤー。SACDの再生では，DSD信号をストレートにアナログ変換する方式と，PCM信号に変換してからD/A変換する

方式とが選択でき，しかも一連のPCM信号は，デジタルフィルターがシャープロールオフ特性とフルエンシー型スローロールオフ特性に切り換えられるので，これらのモード切り換えで微妙な音の違いが楽しめる。SACDもDVDオーディオも現時点で最高峰の再生クオリティと感じられた。（柴崎 功）

入賞は11点以上

プレーヤー部門 (白抜きはテクノロジー・オブ・ザ・イヤー賞, グレーは入賞)			小林	窪田	柴崎	亀山	MJ	合計
アキュフェーズ	DP-100/DC-101	SACDトランスポートとD/Aコンバーター	4	5	4	3	4	20
ラックスマン	DU-10	マルチディスクプレーヤー	4	4	4	4	4	20
マランツ	SA-1	SACDプレーヤー	3	5	3	3	3	17
ビクター	XV-D9000	DVDオーディオ/ビデオプレーヤー	2	3	4	3	2	14
プロジェクト	Perspective	ベルトドライブ式アナログプレーヤー	3	1	3	1	3	11
dCS	Delius/Purcell	192kHz対応D/AコンバーターとD/Dコンバーター	4		4		3	11
パイオニア	PDR-WD70	CD-Rデッキ	2	3	2	3	1	11
デンオン	DVD-3300	DVDオーディオ/ビデオプレーヤー	2	3	2	1	1	9
ソニー	SCD-777ES	SACDプレーヤー	2	2	1	2	2	9
コード	DSC1100E	D/Aコンバーター	2	1	1	3	2	9
テクニクス	DVD-A10	DVDオーディオ/ビデオプレーヤー		3	3	1	2	9
シャープ	DX-SX1	SACDプレーヤー		2	2	2	2	8
ソニー	SCD-XB9	SACDプレーヤー	2	2		2	2	8
アーカム	FMJCD23	24ビットD/Aコンバーター内蔵CDプレーヤー	2	1	1	3	1	8
リン	Classik-T	CDプレーヤー内蔵FM/AMレシーバー	3			2	1	6

プリメインアンプ部門 (白抜きは部門優秀賞, グレーは入賞)

デンオン	PMA-S10Ⅲ	大電流型MOS-FET出力段プリメインアンプ	2	4	4	2	2	14
マランツ	PM6100SA	70W/4Ω×2プリメインアンプ	2	2	3	3	3	13
デンオン	PMA-2000Ⅲ	大電流型MOS-FET出力段プリメインアンプ	2	3	3	2	2	12
サンスイ	AU-α 607 MOS Limited	MOS-FETバランス出力段プリメインアンプ	2	2	2	1	2	9
ファスト	T1-X	ハイブリッド型プリメインアンプ	2	2	2	1	2	9
シャープ	SM-SX1	高速1ビットデジタルアンプ		1	1	3	3	8
マークレビンソン	No.383L	バランス構成プリメインアンプ	2	1		1	1	5

セパレートアンプ部門 (白抜きは部門優秀賞, グレーは入賞)

ラックスマン	C-7f	ラインコントロールアンプ	3	4	4	4	2	17
ラックスマン	M-7f	8Ω負荷200W×2パワーアンプ	3	4	4	3	2	16
アキュフェーズ	C-275V	電流掃選型回路搭載コントロールアンプ	3	3	3	4	3	16
アキュフェーズ	A-20V	A級動作8Ω負荷20W×2パワーアンプ	3	3	3	3	3	15
アキュフェーズ	P-650	2Ω負荷400W×2パワーアンプ	3	4	3	3	2	15
コード	SPM4000	スイッチング電源搭載, 8Ω負荷490W×2パワーアンプ	3	2	1	3	1	10
サウンド	PE700	CR型フォノイコライザーアンプ	2		3	1	2	8
ニッシャ	YN-2002C	ラインコントロールアンプ	1			2	1	4

- [特別賞] ●プロオーディオ機器部門賞
ソニー DRE-S777 デジタルサンプリングリバーブ
●MJクラフト功勞賞
販売店部門: ヒノ・オーディオ
キット部門: サン・オーディオ



窪田登司

21世紀世代への発展性と音楽へのこだわりを重視

単に評論という以上に、私たちジャーナリストはメーカーとユーザーの間を取り持つ役目もあることを日頃心がけている。一方的にメーカーがユーザーに開発した製品を押しつけるのではなく、ユーザーの求めているものをメーカーに偏見なく伝え、ともに発展することを願っている。その意味からも、今年の選考基準は「現状のままで21世紀を迎えていいのか」という、いささか背伸びした感はあるが、理想を追った選考に力を入れた。筆者の点数割り当てを注意深く分析するとそれがわかると思う。

未来志向で発展性があり、21世紀に向かって「これだ!」と思われるもの、さらには月並みでは

あるが、オーディオの醍醐味を教えてくれる「音楽再生にこだわりを持つもの」、そういった製品に高得点を配した。

もちろん、読者の立場に立ってという基本理念は変わらない。ただし、同じ「読者の立場に立って」といっても、音質を重視するか、コストパフォーマンスを重視するか、さらには市場の人気(高額のコンプが半値くらいで売られるなど)を重視するかなど、場合によってはかなり片寄った選考に陥ることがあるので、そのあたりは充分留意した。今年はコストパフォーマンスを重視した。上述したように筆者の点数割り当てを見ていただきたい。

最後に余計なお節介かも知れないが、ユーザーには「こういうサウンドが欲しい」という明確な目標を持つこと、そしてメーカーには「常にユーザーの立場に立って前進して欲しい」とアドバイスをおきたい。

小林 窪田 柴崎 亀山 MJ 合計

真空管アンプ部門

ラックスマン	SQ-88	KT88プッシュプルプリメインアンプ	1	1	1	1	2	6
山本音響工業	A-03	6550Aシングルパワーアンプ	1			1	2	4
デミング	model 21st II	電池バイアス式真空管プリアンプ		1		1	2	4
和光テクニカル	WA-840SS	6BQ5シングルパワーアンプ				1	1	2
サウンドボックス	Mozart Stereo Pre	初期LP用フォノEQ内蔵プリアンプ		1			1	2

スピーカーシステム部門 (白抜きは部門優秀賞, グレーは入賞)

B&W	CDM7NT	2.5ウエイバスレフ型	4	3	3	4	3	17
ファイナル	0.3	静電ハイブリッド型2ウエイ	4	4	3	2	3	16
バイオニア	S-PM2000	樽材エンクロージャー採用コアキシャル3ウエイ	2	4	3	4	3	16
インフィニティ	Intermezzo 2.6	低域用パワーアンプ, EQ内蔵2ウエイ	4	4	4	1	3	16
ビクター	SX-LC3	仮想同軸2ウエイ	2	3	3	3	1	12
B&W	CDM1NT	2ウエイバスレフ型	3	2	3	2	2	12
ボーズ	Model 464	3ウエイ	2	2	3	2	2	11
フォステクス	NF-1	2ウエイモニター	2	1	3	2	3	11
KEF	MODEL4/II	フロア型4ウエイ	3	2	1	2	2	10
JBL	4312M	小型3ウエイ	2	1	1	2	2	8
KEF	Concerto 2	トールボーイ型3ウエイ	1	1		1	2	5
ALR ジョーダン	Entry S	小型2ウエイ	1		1	1	1	4
ALR ジョーダン	NOTE 5	フロア型2.5ウエイ			1	1	1	3

合計 100 100 100 100 100 500

周辺機器部門 (持ち点15点, 11点以上入賞, 白抜きは部門優秀賞, グレーは入賞)

ムラタ	ES103	セラミック圧電振動板採用スーパートウィーター	2	3	3	1	3	12
イルンゴ・オーディオ	crescendo 205	パッシブポリウムコントローラー	3	1	2	4	1	11
オーディオテクニカ	ATH-AD7	ヘッドフォン	3	4	2		2	11
ノイトリック	ML1	携帯型アナライザー	2	1	2	4	2	11
オルトフォン	Kontrapunkt	MCカートリッジ	3	2	3	1	2	11
エレガ	DR-209C2	密閉型ヘッドフォン	1	2	1	2	1	7
コニシス	Tyr 0206EX	10W×2, パソコン用小型パワーアンプ		1	1	2	1	5
山本音響工業	HA-01	真空管式ヘッドフォンアンプ	1	1			2	4
クリプトン	SETTEN シリーズ	スクワラン基材接点復活剤			1	1	1	3

合計 15 15 15 15 15 75



柴崎 功

本格的な次世代オーディオ機器 が登場

選考は、MJテクノロジー・オブ・ザ・イヤーの主旨に則って「技術に重点を置いた評価」をしているが、私は「音質に裏付けられた技術」を重視し、いくら斬新な技術でも、音が良くない場合は技術ではなく「疑術」とみなして、評価点を低くした。

また価格設定にも着目し、ある程度音が良くても価格が法外な製品には低い評価、低価格品でも同価格帯の水準を凌ぐ製品には比較的高い評価をした。もちろん価格が高くて、それに見合う音質を備えた製品には高い点を付けたのは言うまでもない。音質評価に関しては、質感の自然さ、情報量、音楽のノリ具合の3点にとりわけ重点を置いている。

採点は5点法であるが、持ち点が限られているため、5点法では地道に努力をしているマイナーメーカーの製品にまで点が入り入れられない。そこで今年も1点シフトして、自己最高点を4点として採点した。

今年の印象は長引く不況を反映して、十分に練り上げられたハイCPの製品が増えた点である。とりわけプリメインアンプやスピーカーには、数万円台で本格的な音質を備えた超力作が目立った。また、DVDプレーヤーやCD-Rレコーダーの音質が向上したので、CDの再生しかできない単体CDプレーヤーは、もはや存在意義を失いつつある。

ハイエンド製品では、待望のセパレート型SACDプレーヤーや、マルチディスクプレーヤーが登場し、CDのビット拡張/帯域拡張技術も進歩して、これまでとは次元の異なる音質が楽しめる時代がやって来た。一方、アナログオーディオの分野でも、ハイCPのプレーヤーやMCカートリッジが登場しており、その健在ぶりも忘れてはならない。